嵐雪句集

上

かつらもおく集りともあり
れとも一ぢあるこゝろ中落
嵐雪のかくちりひやれ花と
細ゝいてまりやうにこゝろ
例の作り所詩のまりてゑまて
様ゝきたまへとふさいはく
かうしてそこ

古今集にあと見せのしらぬ

云峰集春之部

改正

四海波魚のうろこ年ゆきの春
えびや御ぐしいかばかり
元日や花の文字かさね
年すゝぶる蓬萊の鹿貝小
西〳〵の蛸さゝぶるもゝしの夾
之ゆ先三月三日やさん

今殺生の奥深き所に棹を寄
せれば智恵の鏡を磨くよや
五十すぢ四谷を見めぐりの者
所望されるも泥障をかけまする
神戸やゆ馬をはさむる牛の鞍
樵夫世所孫やさぐるゆきう
惟茂と記すなる二月なる
時自ら聴井二月ゆきねせ

を人の見せかく
ゆかりやゆ
宝山の詞ゆ家の歌
須戸の石見の森こうやの宝舟
夢のうく泊ゆるやゆ泊ゆる
むかし井の絶えめ行きいるひを
人ゆ笑ひ行ひ
よつこよをうやゆうの恋ゆ

[illegible]菜七はるのくさ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
憶[illegible]宮中
[illegible]菜をつまんで茶[illegible]
[illegible]夫 妻
春朝

[illegible]
[illegible]
[illegible]
かつ〳〵[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

一梅

[illegible]一[illegible]

[illegible]

又[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

荏柄天神[illegible]

[illegible]

小と[illegible]一字[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

椿

[illegible]の[illegible]紀貫之

柳

貫之[illegible]

[illegible]

於馬場殿龍馬[illegible]直傳[illegible]

[illegible]其言行未如鏡

[illegible]の柳をさすの[illegible]

春の小さ杜の木蔭を徐行

題しる

正月七日の夜新蕎の部

一句の蕎さをつくし雑

せ川おとを蕎より脱落

蕎のこゝ[illegible]人の詠の部

拘蕎乃蕎みをゝ[illegible]

[illegible]火燵のもとの枕もと

春風の石をり切るしの部

蝋石を切るとて

なをんなよかりて

蕎

蕎の人[illegible]人の列[illegible]蕎うな

柳[illegible]そのもと荒[illegible]蕎

一節了
此種の井あしてを切り海苔かけ
第組して
うるかア関とも越る蝶か哉
紙蕎
糸つるゝ人の手振や几巾
惜暫別

虚空(オホソラ)をも川と見なすやいかのぼりと
牧足ヶ郷かへ落る印
流らるしける
此夕人影増ゆるなれいうか旅
行御惟懸へア松か佛ゝ
木の抜ツけ店かゝるや几巾
随合
およしかしやさでの旅とゆ
蛙

[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]身
中門[illegible]
我等今日聞佛音教
觀喜踊躍と讀誦
[illegible]念佛[illegible]
出[illegible]

出[illegible]
[illegible]
梅
凡七六月花[illegible]
苗代[illegible]
[illegible]
[illegible]
桐[illegible]民[illegible]

上巳

遠く離れぬるこゝろかな
うらやまの雛かつぐ人
雪のまく深へん州の船

沙千子

秀莖の馬方かぐ雪の朝
高ひくに鶏鳴ら梅の子小

桃

枕のくゝ乃桃の席也　等伯筆

桃の月や鱠に美人美人

義

何ぞ桃の花の花の花

白鳥の面をうつしたるやう

花の撫ぬ

梅ハ散なくなる花なく

の雲一ぬ人くらの屋敷

勝本より出船
殺生を禁じ給ふ御寺うるはしく
多智の師を尊ぶ
道遥鴨鷗之間出入之境
色の美しきを見て
花もまた色よきを
[illegible]

新発意の折りもとも山桜
新発山入り贄
なるほどさぞ
小町桜
永意よ月も無きもなほもの
原の石を
[illegible]

砌のまた秋の緑土へしけてる立志げし
の甲斐えんしきほく 乞見て
於そいかきんしか宮女すけわかしみの
客人かとみゆる人々佐合勝る勝まふ今越みへ
篇無えし應死哥人となん心もとの山
雪きしと佛名も伝えしられさら
筆とる所を覗やかしかいれはへ
三へ侍し鍛をかけるる舌の先

りむのそひとかしや大内御
女中寺尼前(アマゼ)たいちの光蓮ゝ
大和らはしなかきかくして牛車も
ふりも雪へ切にし咲も見前好
与え第根をも都まさり大井川ゝり嵯峨
在り花々夜嵐く風のす便咲ちり
逢坂の関荒跡なりてそれ小倉
大井川かを清ゑゑゝもの紅

鵜飼

ならしまゝやすむかた鵜縄

篝 胴明明ルス

かゞり火に船をはなれていとはしき縄

小奴吉弥に花をしへて

小娘より足をあけつゝ松に篝

立志進善

山中のもりつくし黄なる白水

そら鉢叩きて善化の師弟子は

ゆ路の法子三十余丁西に

かゝり筆をもちいし鉢のつゐを

むかし法師の紹介の弟子銭

仕合にかゝる道路を上ゆき侘

花をたゝみて志ある大水はなく

孫娘もかゝれ

中陰廻向

[illegible]

七跡

[illegible]

三七日

[illegible]

墓ゝ示

[illegible]

[illegible]集巻之部

更衣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上

五位六位色々さまざまなれ
ども
りの袋を作りの枝のやうなるまた
布にまぶるき道具かつらん
行幸法楽
古歌に松杉さうと郭公
源懐の詩世を厭ひ蜀魂
鳥ちりぬれば食はれたる時
乳山乃社なる西と高きさて
京なる墨子の盈説のごとき部
時なる所也利休の節・宗
悼晋子の母
嘯いかるもの那うしれる時
なるまぶ野星さし燐ヒカレ比
法成師しるる節を保
冠墨云すし

上

あり明の月の出るやまの山乃端ゆ
時鳥の鳴ゆ
似る者も
夏草なく免うきたもの末
舟をもかるく
樫実あ[illegible]ら[illegible]も乃飯を
川骨や橋の間ゆ軒夜出る

経の偈を連ねてきゝ時鳥
ゆ[illegible]ハ要子迦葉の吟ぜ
懐旧
[illegible]岩房姉なりしを
湯田の者ゆ武俊[illegible]
[illegible]大ゆ嶽へ
牡丹
古庭ゆ[illegible]

土嵩（ナメ）してかたちの新しき牡丹の根
の雑草繁なるを掘ん
青柳
さかりの定まるはや苗の色
義仲寺師父の廟
色もかうりるかさ
新樹
美濃の国なるたたらの刺（キサ）

[illegible]
下部等[illegible]
内外の[illegible]
[illegible]
塵[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

神[illegible]
大[illegible]
聖
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
氷花（[illegible]）
沢深乃もしよくらん乃[illegible]
夢
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

悼[illegible]
[illegible]
蝸牛
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大津の驛[illegible]

あちさゐを五笠より[illegible]

大津の梅と八葉の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

漢父

義[illegible]

照射

[illegible]

杖より[illegible]

端午

[illegible]

[illegible]

一刀尺せんの也の九節
あ丸ゑ賀茂の俳諧
世の何ぞあ尺も荒乃蝸牛
夢根を尋り茅屋を
下る
浮足ハ岩よ放ちかゝ
稼一ゑを全何袖の長
袖ゑ

稼ゑ掛ゑ乃茅屋氏
ゑ上ゑ孫ゑ把
櫻佩ゑ
ゑ地
於ゑ
蠅ゑ
茂ゑ
ゑ蝶
拔劔逐蠅

蠅ちらさ怨るゝなよ夫ちく
龍なきく脇荘幌つけあくりて

獨座

むかしの橋つく幌の折せしを
見よしけ

そよ涼しく彩は絶めや金の蚕
秋つけや夜の杖詩人を吟らく
桃のこし跡もや切らの枝葉く

の帷子こがれく痩く様よ
秋はまり花群の段く
夜の燈やし流す枯つる雲に見ゆ
世は月へ旬紙の蜘蛛に簾いゆくて
川せしれきるあり
うら錦や綿うし
花はしたかへ入れ蛇蜘蛛世わし
残き花也谷よ女の石をかけ

[illegible]意
岸の突もいよ紀よりしい山駿
紀の山きはに浦海よりいはよ
角益九の[illegible]と治[illegible]
やうか海邪山表のあり[illegible]
[illegible]ふ[illegible]
西[illegible]
[illegible]の同よ[illegible]

を思ふもせよ人のもせとも[illegible]
[illegible]
蛇[illegible]
和泉式部之墓
[illegible]
春のさ[illegible]
蛸[illegible]
維盛[illegible]
十[illegible]

除田百五十石代かるも歌とたり
岩ばしとさしたて今も平家く
川骨の花一ぱもさかりとはー
妻驪詣文より脇

荊の花 裾さくしも濃ゆ
桃原 ゑ
さくらより多きもさくも
歌と詠物の花も多き人や

却の口すもきこえ
すれを行き先あり
まる先一族といひ
いかるる市抜のつき
四郎西あるは岩行
むかうき中手書もありはかの
茅萱 ガ
山茅萱の かくしも重きかな

氏

児の手乃玉すもあまるゝ落葉かな

八幡谷新 賀

御堂関白殿御物忌にて荒籠居

来給の時南郎より早出を

出してまつりしに晴に毒気

あよしと千葉にて仰けく

氏を割らるに毒氣別出於

氏

切くさしぬ釵乃光の姉

彼むの妻らしありけるに

いましとて吉凡頭出て嘆

あかし子を和殿村のも露すて

熊盤若九ちるや毋さへ子のえ

ともに落るなをにほひ待らく

山鳥のなかくしあまや五月雨

夜雨吟

五月雨や城第なる夜がらす
をうれや蛭刈の徹尼絶の松こ
世なるの二夢三夢おもしろし
五月雨の燈ともすこそ手ぶるこうのうち
亡母を夢見る
夢ちるよる秋蓑虫母恋し
伏見稲荷木町
椎柏かつ〳〵聖をいもとした

寧もこの古塔かすかに
ひかるの〳〵ぶる歌後の松かな
竹菴や伏見や蓑の春
夢さめて橋よりほとゝぎすの白雨
野ぶ
高ぶるとあり二ツ野
見る母のもとゝ丸きる蓑飯り野

三河風土記

一もとの雨あがりを登る山路かな

寺麦歌

蟬鳴や麦とり入る三つ三

六月や其ことし

其ことし虫おくれの悔の春

雨晴て考たる河蝉の色

那智山

暑中の那瀑（タキ）を奪ふ人の色

及の日に嫁き話乃あり小

日ぐらの小ぐらすさぶる暑さ哉

江の浦

蓮の自や さ蓮（イハヤ）岩のいもうり

稲村ヶ崎とさ月に其蓮ヶ崎

所のうしろ渓父のこゝろてらか

ちごいるまを見りまちる

無月

見うるまの乃男のまゝ八麦の穂
を盒子にもてかつら掛く
うちあめ雲のまたれとかゝせんたゞ明る
長谷寺の前にて
鉦叩の笛さいあゆゝのむ
孤見堂
ゆるく行くいとあり

行ゆくゝ小松の手ゝく仲ほの
雪のしたゝ泊りしよ蚊ゝ
ちゝ雪ゝけるゝ
ゝ
ゝ
川芋のゝ
藤沢を出て東の門ゝ
相ゝ
ゝ桜ゝ
ゝ

元来多く備しく賑しき手
まんまとて螳螂の斧をもて
鼻に出入たるさましく唐土
あきて飛行のまへに松しや
一足行る趣有松か山のうらにまる
かし諸君のききへ侍る成を
しるし
寿たにあはきこえしん松の僊

納涼

大ゐ逝大もとに出る秋の風もとし
水車のまへつくなさかせ
すゞしさや見ゆる水の色
かゝらの涼
ある水の流ゝ清水すゝみに
煙火をせ涼しあかく秋的ゝ旅
一種賞翫まして皆ゆゝ中も

まゐらせ給ふ
時分まゐらせたまふ御料の際
祇園の會七日の詳ものの
山鉾よりはじめ綿よりはじめたる
萩、聖いの家、松尾まゐり
京祇園太刀をもて四条通
舍のせぢ庶人を居きとしたれ
雜式おなじきあるべきの儀

上

ぶしの上下なる男女男女
乃棒てたるものなく袴をはく
ろひ姫君をいりむまこと
四位ふる一二の國を改める
成俄嚴重なる中ふ所ことし
紅車の後ろ町をたしなる何の
用ふ所なし

出て白ものかふれ頭也雑兵の鶴

移徙の祝義に

こと葉の力那よりまさる徳利下

随帆丸

践鹿余

ともすり見たる花鬼灯

佛婦の寺は楊によりねけと

て人也拾ふゑん涼しくて一人穏入

汗を拭も跡すく也竹隣件

ちん寺此和中をはらひ汗拭

俵水　詞去ある暁

桜が岡あまりし法然の行者離

閑居の庵も人のまゝ子鬼白

庵しら川の磨を志つくはく

序令近聞ちむし侍りく京より

大和飯の井めむ和歌の花をつむ

んと出立けるをと跡ありしに

神奈川の港の景色はいとゞ佳
絶景なり海面清れ播列と同名
すこしうの海道を過てもゝか山麓へ
茶の竈
夕煙もいとゞ清らかなる行ひさし
郭公
すぐ海ぶの海岸のきゞ波尾花も
萩細ゝ折〳〵うごく景物

の項に書かれて世間の伝説に
なくてはならぬ日の神を
あらはすものとわきまへあるべき
ものなく学者たる者は
御存じなるべし
いくばく海岸つまりて家はなし
あるまじき用のなりゆかぬ法師